

第2章 市民(18歳以上)調査結果

- ・ 孤独、ひきこもり、老老介護、経済困難は表面化しにくいが地域内に一定程度存在している
- ・ 老後・災害・生活基盤への将来不安が強い

調査項目	調査結果
回答者属性	50歳代の中高年層、長期居住者が中心。多様な世帯形態や住環境の方が回答
近所付き合い	日常交流はあいさつ程度が中心、親密な関係は減少
孤独感	深刻層はごく少数だが、人とのつきあいがいないと感じる方は比較的広範囲
支え合い意識	災害時など助け合いたい気持ちは非常に高い
経済的困難	3割近くが困った経験、背景に収入・物価・健康問題
ひきこもり	潜在的な該当層が存在
地域の課題	老老介護や孤立世帯などが一部で存在
相談行動	家族・知人頼みが中心
将来不安	老後と災害への不安が特に強い
権利擁護制度	一定程度認知されており、利用ニーズが高い
共生社会	法律や考え方への認知度がまだ低い状況
自由意見	相談体制・つながり・安全安心への要望

第6章 調査問での共通質問

- ・ 市民：日常のつながりは希薄化。支え合い意識は高いが行動に結びついていない。生活不安と孤立リスクが裾野にある。
- ・ 高齢者：近所関係は比較的維持。健康悪化・退職が孤立の引き金。ひきこもりが潜在化
- ・ 障害：孤独感が最も深刻。交流手段の確保に課題がある。家族依存が強い

共通テーマ	市民	高齢者	障害分野
近所付き合い	あいさつ中心、親密さは3割弱	親密さは4割半ば(市民より高い)	—
支え合い意識	災害時・見守りへの期待が高い	市民と同じ	—
孤独感	深刻層はごく少数だが、人とのつきあいが無いと感じる方は比較的広範囲	深刻層は少数	強い孤独感が高水準、特に精神障害
社会的交流	対面・電話は少なめ、SNS中心	SNS交流が少ない	障害種別によっては交流手段の確保に課題がある
支え合い意識、仕組み	助け合いたい意向は高い 手助けできる人としてほしい人をつなぐ仕組みにニーズがある	市民と同じ	—
地域活動の意欲・条件	防災・高齢者支援に関心 時間の柔軟性と身近な活動が鍵	身近な活動に参加意欲 条件は市民と同じ	—
相談行動	家族・知人中心	市民と同じ	家族が特に強い、精神は孤立リスク
ひきこもり、きっかけ	潜在的な該当層が存在、退職・病気	本人・家族とも割合が高い、病気	本人・家族に一定数存在、病気
権利擁護制度の認知 利用しない理由	一定程度認知されており、将来の意向は高い 制度内容等がわからない	認知度は低く、将来の意向は高い 家族に支援してもらいたい	—
バリアフリー(ハード) 心のバリアフリー	段差解消や通路幅員の確保が課題 情報発信と学校教育に期待	市民と同じ	市民と同じ
共生社会の認知	法律・条例ともに低い	市民と同じ	低い、障害児保護者は一部認知